

教科等研究会（中学校保健体育部会）

令和2年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的・対話的に取り組み、体力を高める体育授業
～「単元のゴールの姿」を設定した授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回			第2回（研究授業）		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者
7/6	15	益城中学校	11/20	木山中学校	廣津 俊英 (木山学校)

※第3回では、熊本県立教育センターの山科指導主事を招聘し、新学習指導要領についての講話を行っていただく予定であったが、コロナ感染症予防のため中止となった。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は、令和3年度の新学習指導要領完全実施に向け「主体的・対話的」や「単元のゴール」をキーワードとして、研究テーマを設定し、各学校で取り組みを行ってきた。テーマの実現のために特に重視したのが「単元のゴールの姿」の設定である。この「単元のゴールの姿」を明確にするために、単元毎に学習構想案を作成して、授業を行うことを共通実践事項とした上で「①主体的な授業のための取り組み」、「②対話的な授業のための取り組み」、「③単元のゴールを意識させるための取り組み」の3つを柱として研究を進めた。また、本部会では長年にわたって体力向上に向けた取り組みを行ってきた。その成果として、徐々に本郡生徒の体力は向上傾向にある。しかし、依然として体力・運動能力調査の結果では県や全国平均を下回る種目が多い。そこで、各学校での体力向上に向けた取り組みも引き続き実践するようにした。

更に、本年度は研究授業に上益城教育事務所の原田指導主事を招聘し、助言をいただく等、会員以外の協力を得ながら研究を深めた。

①生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

生徒が教師の指示を待つだけの活動では「やらされている」という受け身な気持ちになり、積極的な動きにはつながらない。では、生徒が「やりたい」、「自分たちの力でやっている」という気持ちになり、主体的に動くためには何が必要なのか。それは、「単元や授業への見通しがもてること」や、「今日の授業内容を振り返り、次の授業での目標を立てる時間があること」だと考えた。まず、見通しをもてるようにするために、単元計画表や授業の1時間の流れを示したメニューボードの掲示を共通実践事項とした。これにより、生徒は単元目標や単元全体の見通しをもてると共に、毎時間の学習のめあてや流れを理解して活動ができるようになり、結果として教師の指示が無くても、生徒が主体的に活動する場面が増えた。また、このことは見通しをもって行動することが苦手な支援を要する生徒にとっても有効な手法であったと考える。さらに、学習カードを活用し、授業を振り返る時間を設定した。

このことで、自分や班のメンバーの課題を明らかにすることができ、次の授業が楽しみになったという生徒が増えた。このような授業を楽しみしている生徒の動きは、当然ながら、主体的で活発なものになっていた。



図2 授業の流れを
掲示する

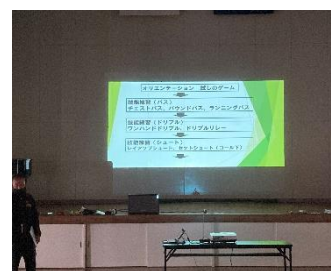


図1 単元の流れを
説明する様子

②生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

新学習指導要領の大きな柱となる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業の中に対話的な活動を多く取り入れた。体育の授業は「体を動かすだけ」というイメージが今でもあるが、「よりよい動き」、「動きを理解する」ためには、対話的な活動は欠かせないものである。具体的には、ペア学習やグループ学習の時間を多く設定し、生徒同士で課題解決に向けた学習ができるようにした。その際、ただ「話し合いなさい」と指示するだけではなく、「何について教え合い、話し合うのか」という視点を明確に示すようにした。例えば、サッカーの授業で作戦



図3 教師が巡回しながら、アドバイスする様子

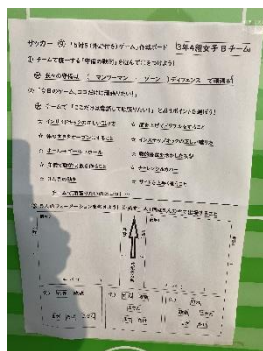


図4 作戦用ワークシート

を考える際には「チームで作戦を話し合いなさい」と指示するのではなく、「これまで学習した、どのフォーメーションを使い、誰をどのポジションにつけるのかを考えなさい」というような、指示を行うようにした。また、その話し合いがスムーズに進むような学習カードを作成し、生徒に記入させた。

このような話し合いや教え合いを行う時間は、生徒が中心となるが、それだけでは意見が偏ったり、客観的に見ることができなったりすることも多いので、教師が巡回し、積極的に賞賛し、助言を重ねるようにした。生徒たちは、話し合い・教え合いの回数を重ねていくと「ここがいいね」や「がんばれ」などの仲間のやる気を引き出す言葉を使うことが増え、「〇〇ができていないかを見ていて」など、自分で仲間に協力を求めながら、学習を進めることができるようになった。

③単元のゴールを意識できる授業づくりについて

「主体的・対話的で深い学び」は大変重要なものではあるが、これは1単位時間の授業の中で実現されるものではなく、単元全体を通して実現していくものである。また、教師自身が単元最後の学習を終えたときの生徒の姿をイメージしておかなければ、単元の目標につなげる授業は作れない。そこで、各単元で単元構想案を作成し、その中には「単元のゴールの姿」という項目を設けた。

さらに、オリエンテーションの時間を充実させることで、生徒にゴールの姿をイメージできるようにした。具体的には、単元1時間目の授業で、生徒に単元のゴールをイメージできるような動画を視聴させた。オリエンテーション後の学習カードには「あんなプレーができるようになりたい」や「今までやったことのない種目だけど、動きのイメージがもてた」との感想を書く生徒が多かった。



図5 ゴールの姿をイメージできる動画を視聴する様子

(2) 成果と課題 (○ : 成果 ● : 課題)

① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

- 単元での学習を見通す→課題に取り組む→自分自身の課題を理解する→課題を修正するという流れができたことで、学びの質が高まった。
- 生徒の主体性を更に高めるため、教師主導な場面を徐々に少なくしていくことが必要である。

② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

- 話し合い活動の際の指示を明確に示したことで、話し合いがスムーズになった。
- コロナ禍での対話的な活動では、長い時間の会話を求めることはできない。だからこそ、的確に自分の意見を伝えることのできる力を身に付けさせることが必要である。

③ 単元のゴールを意識できる授業づくりについて

- オリエンテーションで、単元のゴールの姿をイメージできる動画を視聴することで、その種目に対する生徒の興味・関心を高めることができた。興味・関心が高まることで、積極的に授業に取り組む姿が見られた。
- 「ゴールの姿」をイメージできるものとして、オリンピック選手やプロスポーツ選手がプレーする動画を用いることが多かったが、生徒にとって、一番イメージしやすいものが何なのかを検討していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

中学1年生「球技：バスケットボール」

授業者：廣津 俊英教諭（木山中学校）

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すためには、オリエンテーションの充実が不可欠であるということを提起した授業であった。オリエンテーションで「単元のゴールの姿」がイメージできるよう、プロバスケットボール選手のプレーする動画を視聴させたり、現在の自分の課題が明確になるように、試しのゲームを行ったりする等、生徒に見通しをもたせることのできる授業を実現されていた。よい体育の授業には「勢いがある」、「雰囲気が良い」という条件があるとよく言われるが、生徒が5分間走や補強運動時に全力を出して運動する様子や、話し合い活動での仲間の意見を大切にしながら、考えを深める様子は、まさによい授業の条件に当てはまったものであった。



(2) 授業研究会

①授業者自評

「運動が好きな生徒」と「嫌いな生徒」が二極化している中で、運動が嫌いな生徒に少しでも、バスケットボールに興味・関心をもってもらおうと思い、プロバスケットボール選手の動画を使用した。この動画を見て、生徒たちはバスケットボールに関心をもったという感想を述べていた。今後も、運動への興味・関心が高まるよう、オリエンテーションには力を入れていきたいと考えている。

②質疑応答・研究協議

質疑応答

- Q：動画を見た生徒が「こんなプレーは無理だ」と感じて、やる気を失ってしまうのではないか。
- A：オリエンテーションの段階では、生徒が「すごい」と思うようなプレーを見せるが、授業の中ではパスやシュート等の技術の模範となる「自分にもできそう」な動画を見せようと考えている。
- Q：単元のゴールとして「パスができるようになる」ということが挙げられているが、バスケットボールのおもしろさは、「シュートを打つこと」だと思うので、ゴールの姿は「シュートを打てること」でもよかったのではないか。
- A：もちろん、全員がシュートを打てるようになってほしいと思う。しかしシュートを、打つのは、どうしても「運動が得意な子」になりがちであるので、ゴールに入らなくても、ボードに当たれば得点になる等、誰もがシュート打ちやすいルールを作りたいと考えている。また、シュートはバスケットボールのおもしろさの一つではあるが、シュートを打つためには、パスをつなぐことが大切であるし、パスがつながるから、シュートが打てるという考えを大切にしてほしいと考えている。

研究協議（今回の授業をもとに球技の工夫改善を考える）

オリエンテーションの充実とは、生徒に興味・関心をもたせることだけでなく、課題をつかませるという意味もあるので、更なる充実のため、オリエンテーションの時間を2時間にしてもよいのではないかと考えている。また、動画以外にも有効な方法について考えていくことが必要である。

③助言者まとめ

「単元のゴールの姿」を生徒に示すことで、生徒が単元の「答え」を知ってしまうということにならないようにしなければならない。動画を視聴することは、生徒にとっても大変理解しやすい方法だと思うが、「答え」ではなく、「ヒント」という形で伝えることが望ましい。そのために、タブレット等のICTの使い方を更に研究してほしい。

第1学年1組 保健体育科学習指導案

場 所：木山中学校体育館

本時の学習

本時においては、バスケットボールの特性を知り、単元の目標を理解する。自己やチームの課題を把握し、「熊本の学び」における「分かった、なるほど、やってみよう」の姿を目指す。

(1) 目標 バスケットボールの特性、単元の目標を理解し、自己やチームの課題を把握する。

(2) 展開

過程	時間	子どもの学び	教師の教え (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 挨拶 健康観察 2 準備運動 ストレッチ、5分間走 補強運動（腕立て、背筋、腹筋） 3 水分補給	集団行動を意識させる 自分の健康状態をチェックさせる ケガの防止を意識させる。 みんなで励まし合いの声掛けを行う。 熱中症対策
展開	35分	4 オリエンテーション ○バスケットボールの特性を知る ○単元計画の説明 ○単元のゴールの姿を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> マークされていない味方にパスを出したり、パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動いたりすることができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 【本時の目標（めあて）】 バスケットボールの特性を知り、単元の目標を達成するために克服しなければならないチームの課題を見つけよう </div> 5 試しのゲーム 6 反省会	ICT機器を活用し、映像を使って具体的なイメージを沸かせる。 身近で有名な日本人プレイヤーについて知り、興味を持たせる。 ・八村塁選手、河村勇輝選手の映像を見る バスケットボールの基本技能を映像で見る。 ・パス、ドリブル、シュート 見通しを持たせる 5分間の試しのゲームを行う ステージ側 A対B、C対D 校舎側 E対F、G対H 各チームでゲームでの課題を話し合う
		【具体的評価基準】（知・技）（思・判・表） ・バスケットボールの特性を知り、単元の目標を説明することができる。 ・自分やチームの課題を考えることができる。	〈目標に達しない生徒への手立て〉 再度、単元の目標について説明をし、試しのゲームの中で自分の動きがどうだったかを確認させる
終末	5分	7 本時の振り返り 8 次時の確認	各チームで出た課題を発表する ○次時から基本技能の練習をしていくことを予告する。 ○再度単元のゴールの姿を確認する

終わりに

今年度も研究授業ができたことは、令和4年度に県発表大会を控えている本研究会にとって大きな財産となった。発表大会に向けて、更に研究を深めていきたいと思う。